

第3章 新入生および保護者調査の結果

—奨学金・学生寮に関するクロス集計—

第3章では、新入生394名、新入生の保護者384名に対する調査結果について報告する。

(1) 問題・目的

本章では、新入生および保護者を対象とした調査の中から、奨学金制度および学生寮に関する調査項目を取り上げ、それぞれの現状を明らかにし、昨年度の結果と比較して、今後の課題や展開を示唆することを目的とする。具体的には、以下の2点について明らかにする。

1. 新入生のうち、どのような学生が奨学金を認知しているのか、奨学金の受給経験があるのか、学生寮を認知しているのかを明らかにし、本学の奨学金制度および学生寮の今後の課題や展開を示唆する。
2. 保護者のうち、どのような保護者が奨学金を希望しているのか、学生寮への入寮を希望しているのかを明らかにし、本学の奨学金制度および学生寮の今後の課題や展開を示唆する。

(2) 奨学金に関する結果

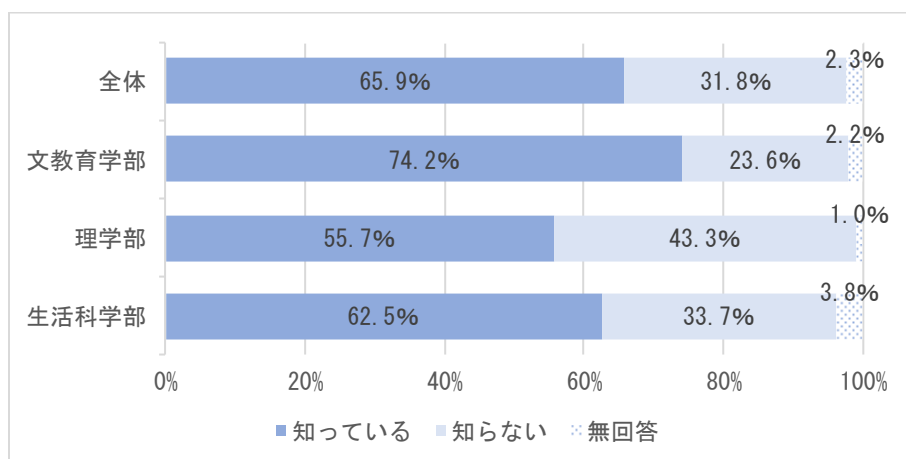
① 新入生の結果

<奨学金等制度の認知と受給経験>

新入生の奨学金等制度の認知と受給経験について示したものが図表1-1～1-3である。

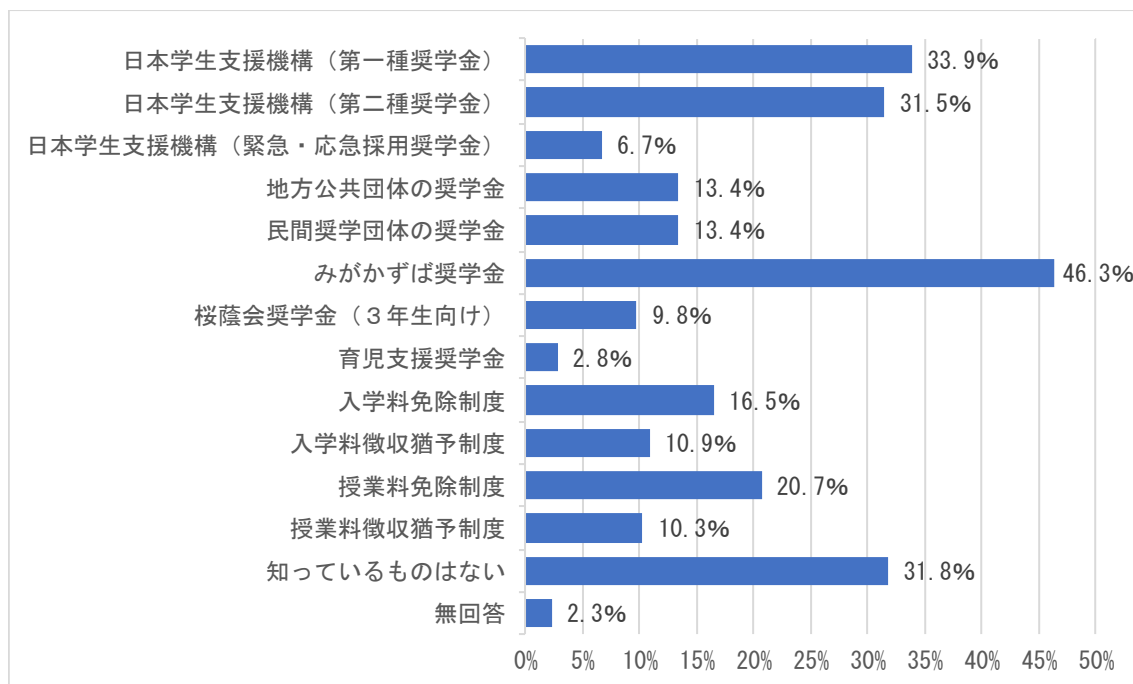
図表1-1は奨学金等制度の認知について、学部別に示している。奨学金等制度について、1つでも認知していれば「知っている」とした。

全体では65.9%の新入生が奨学金等制度について認知している。学部別にみると、理学部での認知度が最も低く、55.7%であり、これは昨年度と同様の傾向である。



図表1-1 学部別奨学金等制度の認知

図表1-2は、奨学金等制度の認知について、本学独自の制度も含め複数回答可として尋ねた結果である。最も認知度が高いものは本学独自の奨学金である「みがかずば奨学金」で46.3%である。それに次いで日本学生支援機構の奨学金の第一種・第二種が33.9%、31.5%と続いている。また、「知っているものはない」が31.8%と多く、これは昨年度の27.0%と比べて4.8ポイント高い結果となった。



図表1-2 奨学金等制度の認知

図表1-3は、これまで受けたことのある奨学金等制度について、複数回答可として尋ねた結果である。「特待生」が5.4%と最も多く、ほかの奨学金等制度の受給経験は1~2%程度と低い割合を示している。

奨学金等制度名称	日本学生支援機構	地方公共団体	学校独自	民間奨学団体	新聞社	その他	学費免除	特待生
受けたことがある	1.8%	0.3%	2.1%	1.0%	0.0%	0.5%	1.6%	5.4%

図表1-3 制度別奨学金・学費免除等制度の受給経験

<奨学金等制度の認知と属性などの項目とのクロス表>

次に、どのような学生が奨学金等制度を認知しているのかを明らかにするため、「奨学金の認知」と各項目のクロス表を作成し、カイ二乗検定を行った。「奨学金の認知」は、それぞれの選択肢の中で一つでも認知していれば「知っている」として分析した。結果を図表1-4~1-9に示す。

図表1-4は「きょうだい数」と「奨学金認知」のクロス表である。きょうだい数と奨学金認知について有意な関連はみられなかった。

図表1-4 きょうだい数 と 奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
きょうだい数	1人っ子	度数	31	14	45
		%	68.9%	31.1%	100.0%
	2人きょうだい	度数	161	73	234
		%	68.8%	31.2%	100.0%
	3人以上	度数	58	28	86
		%	67.4%	32.6%	100.0%
合計		度数	250	115	365
		%	68.5%	31.5%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表1-5は「出身高校設置者」と「奨学金認知」のクロス表である。ただし出身高校の設置者と奨学金の認知について有意な関連は見られなかった。

図表1-5 出身高校設置者 と 奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
出身高校設置者	公立	度数	141	73	214
		%	65.9%	34.1%	100.0%
	私立	度数	103	43	146
		%	70.5%	29.5%	100.0%
	国立	度数	16	4	20
		%	80.0%	20.0%	100.0%
	海外	度数	1	2	3
		%	33.3%	66.7%	100.0%
合計		度数	261	122	383
		%	68.1%	31.9%	100.0%

n.s.

図表 1-6 は「奨学金受給経験」と「奨学金認知」のクロス表である。奨学金の受給経験がある場合には、奨学金等制度についても認知している割合が高いことが明らかとなった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表1-6 奨学金受給経験 と奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
奨学金受給経験	経験なし	度数	221	119	340
		%	65.0%	35.0%	100.0%
	経験あり	度数	41	4	45
		%	91.1%	8.9%	100.0%
合計		度数	262	123	385
		%	68.1%	31.9%	100.0%

図表 1-7 は「入学後の予定住居」と「奨学金認知」のクロス表である。入学後に予定している住居が実家以外（賃貸マンション・アパート、学生寮）の新入生が、奨学金等制度について認知している割合が高い傾向がみられた。ただし入学後の予定住居と奨学金認知について有意な関連は見られなかった。

図表1-7 入学後の予定住居 と奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
入学後の 予定住居	実家以外	度数	110	42	152
		%	72.4%	27.6%	100.0%
	実家	度数	151	81	232
		%	65.1%	34.9%	100.0%
合計		度数	261	123	384
		%	68.0%	32.0%	100.0%

n.s.

図表1-8は「仕送り額」と「奨学金認知」のクロス表である。図表1-8での「仕送り額」は、入学後の予定住居を「実家以外（賃貸マンション・アパート、学生寮）」と回答した新入生の仕送り額を示している。仕送り額と奨学金認知との間に有意な関連はみられなかった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表1-8 仕送り額 と 奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
仕送り額	仕送りなし	度数	5	0	5
		%	100.0%	0.0%	100.0%
	5万円未満	度数	11	2	13
		%	84.6%	15.4%	100.0%
	5万円以上10万円未満	度数	43	23	66
		%	65.2%	34.8%	100.0%
	10万円以上	度数	47	14	61
		%	77.0%	23.0%	100.0%
合計		度数	106	39	145
		%	73.1%	26.9%	100.0%

n.s.

図表 1-9 は「学生寮認知」と「奨学金認知」のクロス表である。学生寮について認知している場合は、奨学金等制度についても認知している割合が高く、これは昨年度と同様の結果であった。

図表1-9 学生寮認知 と 奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
学生寮認知	知っている	度数	194	50	244
		%	79.5%	20.5%	100.0%
	知らない	度数	68	73	141
		%	48.2%	51.8%	100.0%
合計		度数	262	123	385
		%	68.1%	31.9%	100.0%

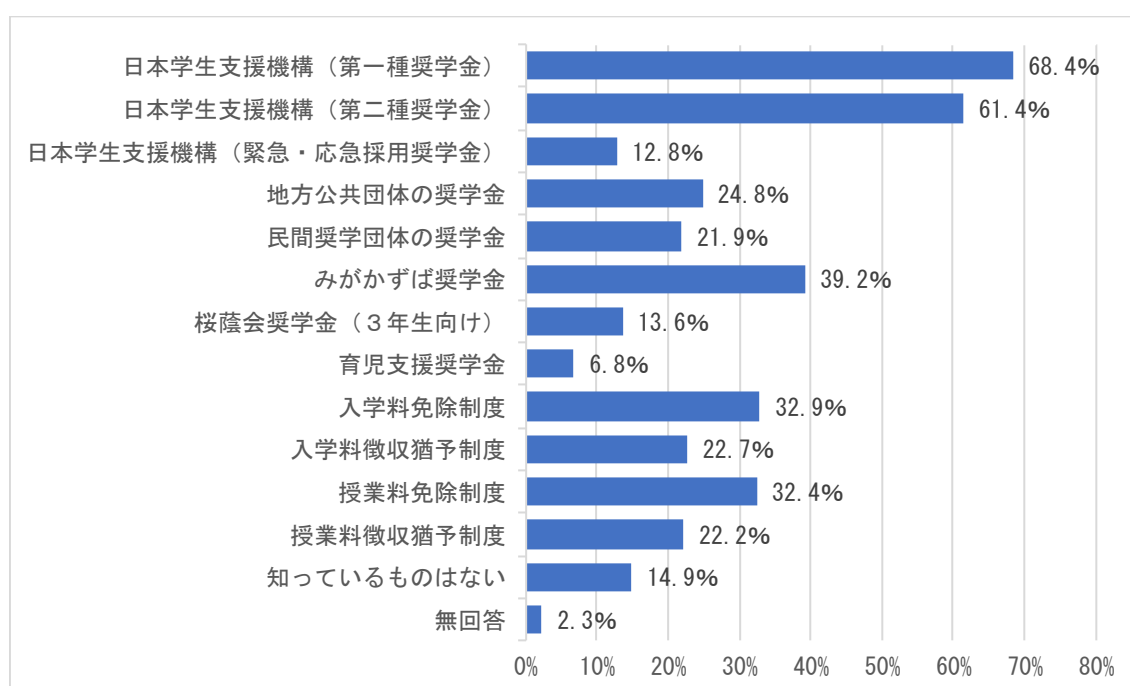
② 保護者の結果

<奨学金等制度の認知・受給経験・利用希望>

保護者の票の奨学金等制度の認知、利用希望について示したものが図表 2-1～2-2 である。

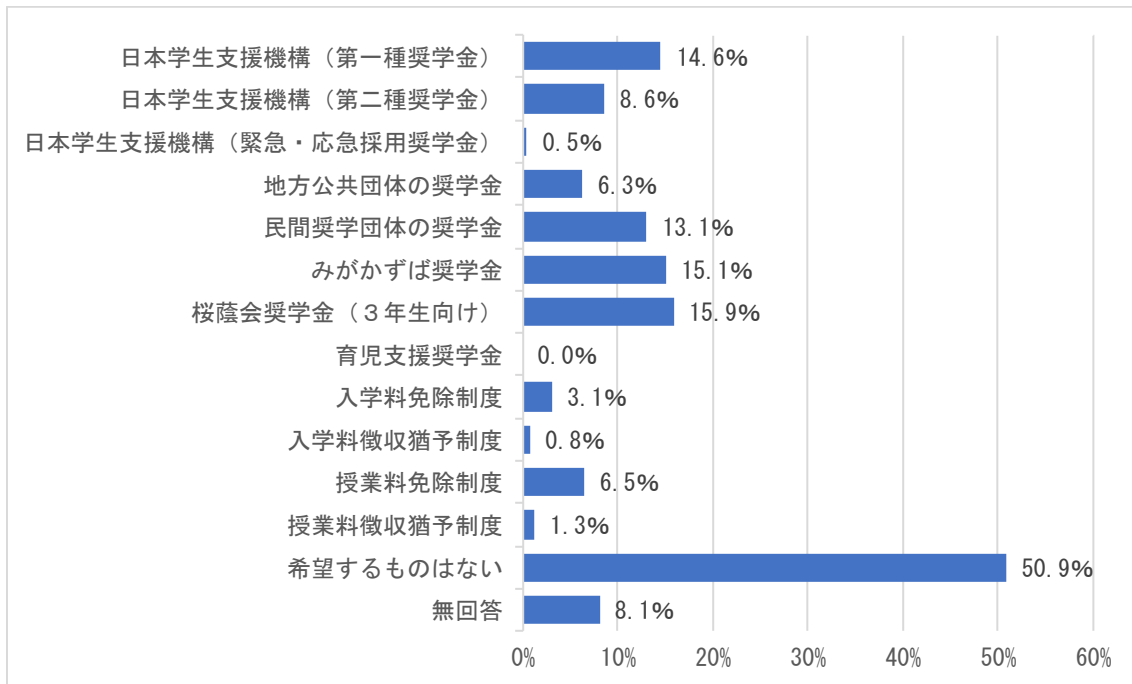
図表2-1は、保護者の奨学金・学費免除等の制度の認知について、本学独自の制度も含め複数回答可として尋ねた結果である。

奨学金制度に関しては、日本学生支援機構第一種が68.4%と最も高い認知率であり、第二種が61.4%と続く。本学独自の奨学金制度である「みがかずば奨学金」については39.2%で、これは平成29年度の保護者の36.5%よりも3ポイント程度高い認知率を示していた。「入学料徴収猶予制度」と「授業料徴収猶予制度」以外のものはすべて昨年度調査より高い認知率を示していた。(お茶の水女子大学2017)



図表 2-1 保護者の奨学金等制度の認知度

図表 2-2 では大学入学後の奨学金等制度利用希望について、複数回答可として尋ねた結果である。もっとも利用希望率が高かったものとしては、本学独自の奨学金である、「桜蔭会奨学金 (3年生向け)」が 15.9%、次いで「みがかずば奨学金」が 15.1%であった。これら 2 つの奨学金は給付型奨学金である。過去 7 年の調査の中では希望率が最も高いのは日本学生支援機構 (第一種奨学金) であり、今年度調査で初めて本学独自の給付型奨学金が最も高い利用希望率を示すこととなった。また、「希望するものはない」と回答した割合が 50.9%であり、これは過去 7 年の調査と比べて最も高い割合である。



図表 2-2 奨学金等制度の利用希望

<奨学金希望と属性などの項目とのクロス表>

次に、どのような保護者が奨学金等制度の利用を希望しているか明らかにするため、「奨学金の希望」と各項目とのクロス表を作成し、カイ二乗検定を行った。それぞれの結果を図表 2-3～2-11 に示す。

図表 2-3 は「家計支持者」と「奨学金希望」のクロス表である。家計支持者が母親の場合、奨学金を希望する割合が高いという傾向がみられた。ただし、家計支持者と奨学金希望について、有意な関連はみられなかった。

図表2-3 家計支持者 と 奨学金希望 のクロス表

		奨学金希望		合計	
		希望する	希望しない		
家計支持者	父	度数	152	191	343
		%	44.3%	55.7%	100.0%
	母	度数	6	4	10
		%	60.0%	40.0%	100.0%
合計		度数	158	195	353
		%	44.8%	55.2%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 2-4 は、「父親の就労形態」と「奨学金の希望」のクロス表である。父親が「フルタイム勤務」以外の場合は奨学金を希望する割合が高い傾向がみられた。ただし、奨学金希望と父親の就労形態には有意な関連はみられなかった。

図表2-4 父親の就労形態 と 奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計	
			希望する	希望しない		
父親の 就労形態	フルタイム勤務	度数	127	182	309	
		%	41.1%	58.9%	100.0%	
	パートタイム勤務	度数	1	0	1	
		%	100.0%	0.0%	100.0%	
	自 営	度数	11	10	21	
		%	52.4%	47.6%	100.0%	
	無 職	度数	8	2	10	
		%	80.0%	20.0%	100.0%	
	いない	度数	7	1	8	
		%	87.5%	12.5%	100.0%	
	合計		度数	154	195	349
			%	44.1%	55.9%	100.0%

n.s.

図表 2-5 は、「母親の就労形態」と「奨学金の希望」のクロス表である。「母親の就労形態」を「フルタイム勤務」もしくは「いない」と回答した場合、奨学金を希望する割合が高く、それ以外の場合は奨学金を希望する割合が低い傾向がみられた。

図表2-5 母親の就労形態 と 奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計	
			希望する	希望しない		
母親の 就労形態	フルタイム勤務	度数	40	43	83	
		%	48.2%	51.8%	100.0%	
	パートタイム勤務	度数	70	89	159	
		%	44.0%	56.0%	100.0%	
	自 営	度数	8	11	19	
		%	42.1%	57.9%	100.0%	
	無 職	度数	36	47	83	
		%	43.4%	56.6%	100.0%	
	いない	度数	2	1	3	
		%	66.7%	33.3%	100.0%	
	合計		度数	156	191	347
			%	45.0%	55.0%	100.0%

**

図表2-6は「入学後の暮らし向き」と「奨学金希望」のクロス表である。入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じている場合には奨学金を希望する割合が高いことが示された。これは昨年度と同様の結果であった。

図表2-6 入学後の暮らし向き と 奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
入学後の暮らし向き	ゆとりがない	度数	147	65	212
		%	69.3%	30.7%	100.0%
	ゆとりがある	度数	24	114	138
		%	17.4%	82.6%	100.0%
合計		度数	171	179	350
		%	48.9%	51.1%	100.0%

**

図表2-7は「世帯年収」と「奨学金希望」のクロス表である。「1200万円以上」の選択肢を合算してクロス表を作成した。世帯年収が1000万円未満の場合には奨学金を希望する割合が高く、世帯年収が1000万円以上の場合には奨学金を希望する割合が低いことが明らかになった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表2-7 世帯年収 と 奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計	
			希望する	希望しない		
世帯年収	400万円未満	度数	28	1	29	
		%	96.6%	3.4%	100.0%	
	400万円以上	度数	28	6	34	
		%	82.4%	17.6%	100.0%	
	600万円未満	度数	35	16	51	
		%	68.6%	31.4%	100.0%	
	600万円以上	度数	45	37	82	
		%	54.9%	45.1%	100.0%	
	800万円未満	度数	16	48	64	
		%	25.0%	75.0%	100.0%	
	800万円以上	度数	20	70	90	
		%	22.2%	77.8%	100.0%	
	合計		度数	172	178	350
			%	49.1%	50.9%	100.0%

**

図表2-8は「家計支持者年収」と「奨学金希望」のクロス表である。「1200万円以上」の選択肢は合算してクロス表を作成した。家計支持者の年収が800万円未満の場合には奨学金を希望する割合が高く、家計支持者の年収が800万円以上の場合には奨学金を希望する割合が低いことが明らかになった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表2-8 家計支持者年収 と 奨学金希望 のクロス表

		奨学金希望		合計	
		希望する	希望しない		
家計支持者年収	400万円未満	度数	38	3	41
		%	92.7%	7.3%	100.0%
	400万円以上 600万円未満	度数	31	9	40
		%	77.5%	22.5%	100.0%
	600万円以上 800万円未満	度数	42	32	74
		%	56.8%	43.2%	100.0%
	800万円以上 1000万円未満	度数	36	44	80
		%	45.0%	55.0%	100.0%
	1000万円以上 1200万円未満	度数	15	48	63
		%	23.8%	76.2%	100.0%
1200万円以上	度数	10	42	52	
	%	19.2%	80.8%	100.0%	
合計		度数	172	178	350
		%	49.1%	50.9%	100.0%

**

図表2-9は「奨学金受給経験」と「奨学金希望」のクロス表である。これまでに奨学金受給経験がある場合には奨学金を希望する割合が高いことが示された。これは昨年度と同様の結果であった。

図表2-9 奨学金受給経験 と 奨学金希望 のクロス表

		奨学金希望		合計	
		希望する	希望しない		
奨学金 受給経験	経験なし	度数	137	173	310
		%	44.2%	55.8%	100.0%
	経験あり	度数	36	10	46
		%	78.3%	21.7%	100.0%
合計		度数	173	183	356
		%	48.6%	51.4%	100.0%

**

図表 2-10 は「学生寮認知」と「奨学金希望」のクロス表である。昨年度同様に、学生寮を知っている場合、奨学金を希望する割合が高いことが示された。

図表2-10 学生寮認知 と 奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
学生寮認知	知っている	度数	126	81	207
		%	60.9%	39.1%	100.0%
	知らない	度数	44	99	143
		%	30.8%	69.2%	100.0%
合計		度数	170	180	350
		%	48.6%	51.4%	100.0%

**

図表2-11は「学生寮希望」と「奨学金希望」のクロス表である。昨年度同様に、学生寮を希望している場合、奨学金を希望する割合が高いことが示された。

図表2-11 学生寮希望 と 奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
学生寮希望	希望する	度数	69	18	87
		%	79.3%	20.7%	100.0%
	希望しない	度数	100	160	260
		%	38.5%	61.5%	100.0%
合計		度数	169	178	347
		%	48.7%	51.3%	100.0%

**

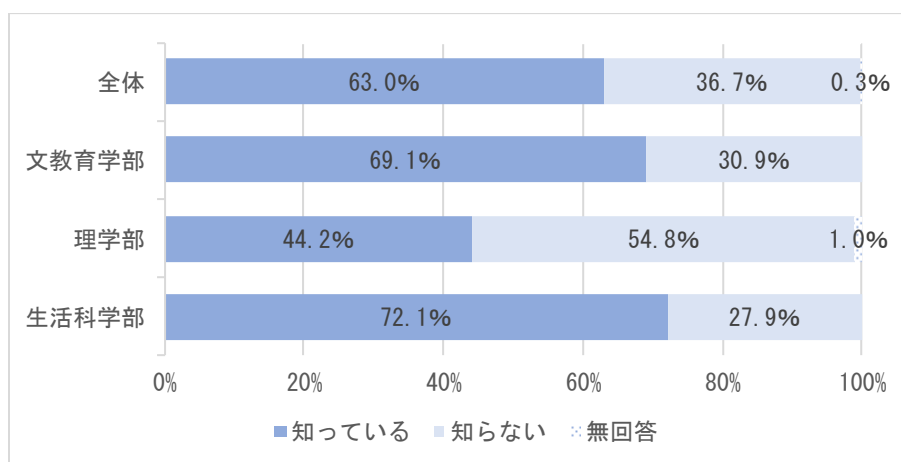
(3) 学生寮に関する結果

① 新入生の結果

<学生寮の認知>

図表3-1は本学の学生寮の認知について、複数回答可として尋ね、学部別に集計した結果である。1つでも認知している学生寮があれば「知っている」とした。全体では63.0%の新入生が学生寮について認知している。

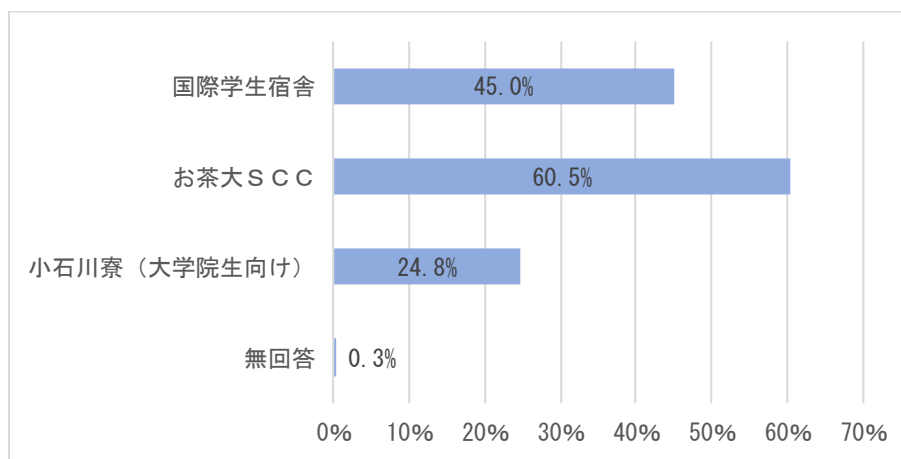
学部別にみると、理学部が他学部比べて20ポイント以上低い結果となっており、これは昨年度調査でも同様の結果であった。



図表 3-1 本学の学生寮に対する認知（学部別）

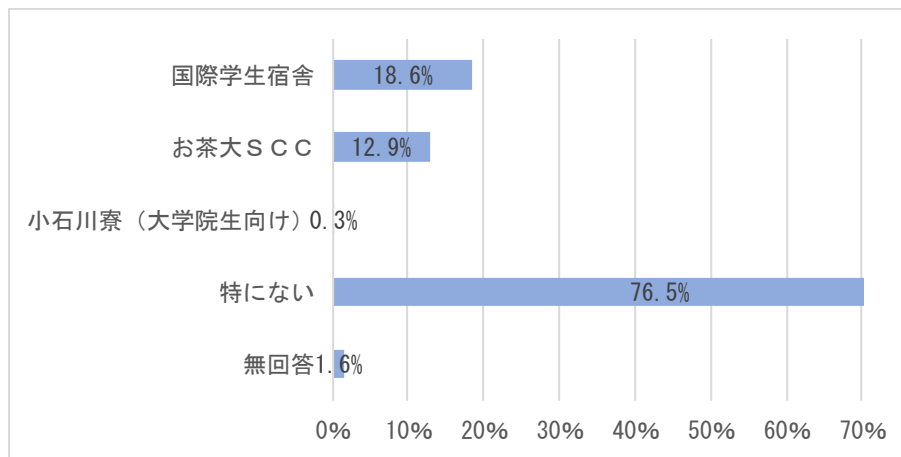
図表 3-2 では本学の学生寮に対する認知を複数回答可として尋ね、寮の種類別に集計した結果である。本学には国際学生宿舎（学部生対象）、お茶大 SCC（学部 1・2 年生対象）、小石川寮（大学院生対象）の 3 つの学生寮がある。

認知率は、お茶大 SCC が 60.5% と最も高く、これは昨年度調査での 60.1% とほぼ同様の結果であった。国際学生宿舎の認知率 45.0% は、昨年度新入生の 51.0% と比べ 6 ポイント低くなっている。（お茶の水女子大学 2017）



図表 3-2 本学の学生寮に対する認知（寮別）

入寮を希望する学生寮を複数回答可として尋ねた結果が図表 3-3 である。希望する学生寮を「特
にない」と回答した新生者が最も多く 76.5%であった。国際学生宿舎を希望する学生は 18.6%で、
昨年度の 18.5%とほぼ同様の結果である。お茶大 SCC を希望する学生は 12.9%であり、これは昨
年度調査の 9.4%と比べて 3 ポイント程度高くなっている。



図表 3-3 本学の学生寮への入寮希望 (寮別)

<学生寮の認知と属性などの項目とのクロス表>

次に、どのような新生者が本学の学生寮について認知しているか明らかにするため、「学生寮の
認知」と各項目とのクロス表を作成し、カイ二乗検定を行った。それぞれ結果を図表 3-4~3-8 に
示す。「学生寮の認知」は、本学の学生寮のうち、1 つでも知っているものがあれば「知ってい
る」とした。

図表3-4では「きょうだい数」と「学生寮認知」のクロス表である。きょうだい数と学生寮認知
との間には有意な関連はみられなかった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表3-4 きょうだい数 と 学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
きょうだい数	1人っ子	度数	28	17	45
		%	62.2%	37.8%	100.0%
	2人きょうだい	度数	158	81	239
		%	66.1%	33.9%	100.0%
	3人以上	度数	51	36	87
		%	58.6%	41.4%	100.0%
合計	度数	237	134	371	
	%	63.9%	36.1%	100.0%	

n.s.

注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表3-5は「出身高校設置者」と「学生寮認知」のクロス表である。「出身高校設置者」と「学生寮認知」との間には有意な関連は見られなかった。

図表3-5 出身高校設置者 と 学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
出身高校設置者	公立	度数	140	80	220
		%	63.6%	36.4%	100.0%
	私立	度数	95	53	148
		%	64.2%	35.8%	100.0%
	国立	度数	13	7	20
		%	65.0%	35.0%	100.0%
	海外	度数	1	2	3
		%	33.3%	66.7%	100.0%
合計		度数	249	142	391
		%	63.7%	36.3%	100.0%

n.s.

図表3-6は「奨学金受給経験」と「学生寮の認知」のクロス表である。奨学金受給経験がある場合、学生寮について認知している割合が高い傾向がみられた。ただし、「奨学金受給経験」と「学生寮認知」の間には有意な関連はみられなかった。

図表3-6 奨学金受給経験 と 学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
奨学金受給経験	経験なし	度数	217	130	347
		%	62.5%	37.5%	100.0%
	経験あり	度数	33	13	46
		%	71.7%	28.3%	100.0%
合計		度数	250	143	393
		%	63.6%	36.4%	100.0%

n.s.

図表3-7では「入学後の予定住居」と「学生寮認知」のクロス表である。入学後の住居が実家以外（賃貸マンション・アパート、寮など）の場合には、学生寮について認知している割合が高いことが明らかになった。

図表3-7 居住予定の住居 と 学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
居住予定の住居	実家以外	度数	128	28	156
		%	82.1%	17.9%	100.0%
	実家	度数	121	115	236
		%	51.3%	48.7%	100.0%
合計		度数	249	143	392
		%	63.5%	36.5%	100.0%

図表 3-8 は「仕送り額」と「学生寮の認知」のクロス表である。図表 3-8 での「仕送り額」は、入学後の予定住居を「実家以外（賃貸マンション・アパート、寮など）」と回答した新入生の仕送り額を示している。「仕送り額」と「学生寮の認知」の間には有意な関連は見られなかった。

図表3-8 仕送り額 と 学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計	
			知っている	知らない		
仕送り額	仕送りなし	度数	4	2	6	
		%	66.7%	33.3%	100.0%	
	5万円未満	度数	13	0	13	
		%	100.0%	0.0%	100.0%	
	5万円以上 10万円未満	度数	53	14	67	
		%	79.1%	20.9%	100.0%	
	10万円以上	度数	53	10	63	
		%	84.1%	15.9%	100.0%	
	合計		度数	123	26	149
			%	82.6%	17.4%	100.0%

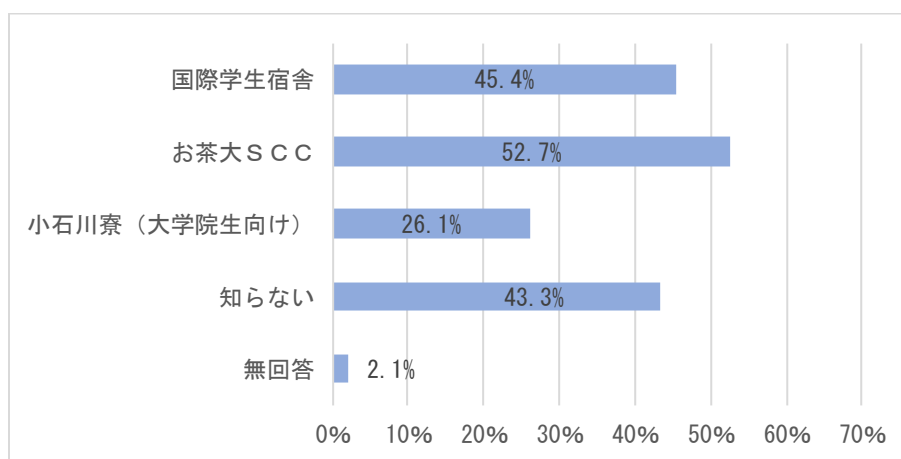
n.s.

② 保護者の結果

<学生寮の認知と利用希望>

図表 4-1 では本学の学生寮に対する認知を複数回答可として尋ねた結果である。

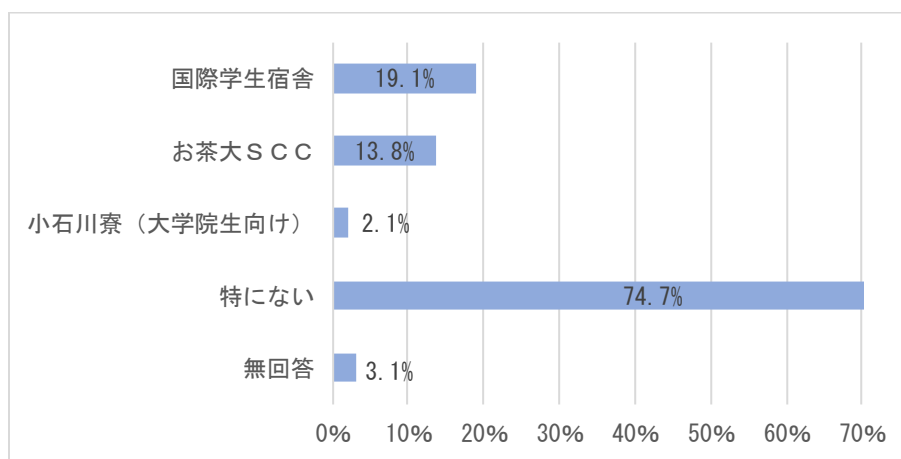
お茶大 SCC が 52.7%と最も高く、次いで国際学生宿舎が 45.4%であった。「知らない」と回答した割合は 43.3%であり、昨年度調査の 39.5%と比べて 3.8 ポイント高い結果となった。これは過去 7 年間の調査と比べて最も高い割合を示している。(お茶の水女子大学 2017)



図表 4-1 保護者の学生寮認知

図表 4-2 は、本学の学生寮への入寮希望について複数回答可として尋ねた結果である。

「国際学生宿舎」への入寮希望が 19.1%、次いで「お茶大 SCC」が 13.8%であり、昨年度と同様の結果を示している。また、「特にない」が 74.7%であり、これは昨年度調査の 70.6%と比べて 4.1 ポイント高い結果となっており、過去 7 年間の調査と比べて最も高い割合を示している。(お茶の水女子大学 2017)



図表 4-2 本学の学生寮への入寮希望

<学生寮入寮希望と属性などの項目とのクロス表>

次に、どのような保護者が学生寮への入寮を希望しているか明らかにするために「入寮希望」とのクロス表を作成し、カイ二乗検定を行った。それぞれ結果を図表 4-3~4-10 に示す。

図表 4-3 では「家計支持者」と「入寮希望」のクロス表である。家計支持者が母親である場合には学生寮を希望する割合が高い傾向がみられるが、「家計支持者」と「入寮希望」の間に有意な関連はみられなかった。

図表4-3 家計支持者 と 入寮希望 のクロス表

		入寮希望		合計	
		希望する	希望しない		
家計支持者	父	度数	82	280	362
		%	22.7%	77.3%	100.0%
	母	度数	3	7	10
		%	30.0%	70.0%	100.0%
合計		度数	85	287	372
		%	22.8%	77.2%	100.0%

n.s. 注 *** $p<.000$, ** $p<.01$, * $p<.05$, n.s. (not significant)

図表 4-4 では「父親の就労形態」と「入寮希望」のクロス表である。父親の就労形態が「フルタイム勤務」、「パートタイム勤務」以外の場合には学生寮を希望する割合がやや高い傾向がみられた。ただし、「父親の就労形態」と「入寮希望」の間には有意な関連はみられなかった。

図表4-4 父親の就労形態 と入寮希望 のクロス表

		入寮希望		合計	
		希望する	希望しない		
父親の 就労形態	フルタイム勤務	度数	72	254	326
		%	22.1%	77.9%	100.0%
	パートタイム勤務	度数	0	1	1
		%	0.0%	100.0%	100.0%
	自 営	度数	6	16	22
		%	27.3%	72.7%	100.0%
	無 職	度数	3	6	9
		%	33.3%	66.7%	100.0%
	いない	度数	3	6	9
		%	33.3%	66.7%	100.0%
合計		度数	84	283	367
		%	22.9%	77.1%	100.0%

n.s.

図表 4-5 では「母親の就労形態」と「入寮希望」のクロス表である。母親が「フルタイム勤務」もしくは「パートタイム勤務」の場合には学生寮を希望する割合が高い傾向がみられた。ただし「母親の就労形態」と「入寮希望」との間には有意な関連は見られなかった。

図表4-5 母親の就労形態 と 入寮希望 のクロス表

			入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
母親の 就労形態	フルタイム勤務	度数	25	61	86
		%	29.1%	70.9%	100.0%
	パートタイム勤務	度数	44	123	167
		%	26.3%	73.7%	100.0%
	自 営	度数	1	18	19
		%	5.3%	94.7%	100.0%
	無 職	度数	15	75	90
		%	16.7%	83.3%	100.0%
	いない	度数	0	4	4
		%	0.0%	100.0%	100.0%
合計		度数	85	281	366
		%	23.2%	76.8%	100.0%

n.s.

図表 4-6 は「入学後の暮らし向き」と「入寮希望」のクロス表である。入学後の暮らし向きについて「ゆとりがない」と回答している場合、学生寮を希望する割合が高いことが明らかになった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表4-6 入学後の暮らし向き と 入寮希望 のクロス表

			入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
暮らし向き	ゆとりがない	度数	66	137	203
		%	32.5%	67.5%	100.0%
	ゆとりがある	度数	16	148	164
		%	9.8%	90.2%	100.0%
合計		度数	82	285	367
		%	22.3%	77.7%	100.0%

図表 4-7 では「世帯年収」と「入寮希望」のクロス表である。世帯年収について「1200 万円以上」の選択肢は合算してクロス表を作成した。世帯年収が 1000 万円未満の場合は学生寮を希望する割合が高いことが明らかになった。これは昨年度と同様の結果であった。

図表4-7 世帯年収 と 入寮希望 のクロス表

			入寮希望		合計	
			希望する	希望しない		
世帯年収	400万円未満	度数	10	11	21	
		%	47.6%	52.4%	100.0%	
	400万円以上 600万円未満	度数	10	20	30	
		%	33.3%	66.7%	100.0%	
	600万円以上 800万円未満	度数	18	31	49	
		%	36.7%	63.3%	100.0%	
	800万円以上 1000万円未満	度数	21	64	85	
		%	24.7%	75.3%	100.0%	
	1000万円以上 1200万円未満	度数	15	66	81	
		%	18.5%	81.5%	100.0%	
	1200万円以上	度数	9	92	101	
		%	8.9%	91.1%	100.0%	
	合計		度数	83	284	367
			%	22.6%	77.4%	100.0%

図表 4-8 は「家計支持者の年収」と「入寮希望」のクロス表である。家計支持者の年収が 800 万円未満の場合は、学生寮を希望する割合が高いことが明らかとなった。昨年度は、「家計支持者年収」と「入寮希望」には有意な関連がみられ、家計支持者年収が 1000 万円未満の場合に学生寮を希望する割合が高かった。

図表4-8 家計支持者年収 と 入寮希望 のクロス表

			入寮希望		合計	
			希望する	希望しない		
家計支持者年収	400万円未満	度数	13	19	32	
		%	40.6%	59.4%	100.0%	
	400万円以上 600万円未満	度数	20	24	44	
		%	45.5%	54.5%	100.0%	
	600万円以上 800万円未満	度数	19	55	74	
		%	25.7%	74.3%	100.0%	
	800万円以上 1000万円未満	度数	18	74	92	
		%	19.6%	80.4%	100.0%	
	1000万円以上 1200万円未満	度数	11	55	66	
		%	16.7%	83.3%	100.0%	
	1200万円以上	度数	4	56	60	
		%	6.7%	93.3%	100.0%	
	合計		度数	85	283	368
			%	23.1%	76.9%	100.0%

図表4-9は「奨学金受給経験」と「入寮の希望」のクロス表である。過去に奨学金の受給経験がある場合、学生寮を希望する割合が高い傾向がみられた。ただし、「奨学金受給経験」と「学生寮の希望」には有意な関連はみられなかった。

図表4-9 奨学金受給経験 と入寮希望 のクロス表

			入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
奨学金受給経験	経験なし	度数	71	256	327
		%	21.7%	78.3%	100.0%
	経験あり	度数	14	29	43
		%	32.6%	67.4%	100.0%
合計		度数	85	285	370
		%	23.0%	77.0%	100.0%

n.s.

図表 4-10 が「学生寮認知」と「入寮希望」のクロス表である。学生寮について認知している場合には、学生寮を希望する割合がやや高いことが推察される。ただし、「学生寮認知」と「入寮希望」には有意な関連はみられなかった。

図表4-10 学生寮認知 と 入寮希望 のクロス表

			入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
学生寮認知	知っている	度数	85	121	206
		%	41.3%	58.7%	100.0%
	知らない	度数	0	166	166
		%	0.0%	100.0%	100.0%
合計		度数	85	287	372
		%	22.8%	77.2%	100.0%

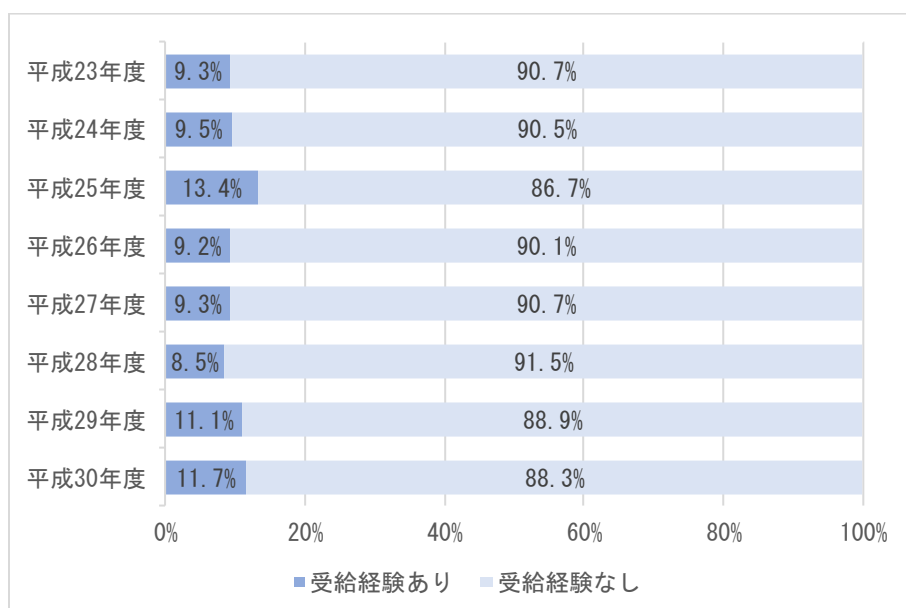
n.s.

(4) 奨学金と学生寮について、過年度との比較

① 新入生

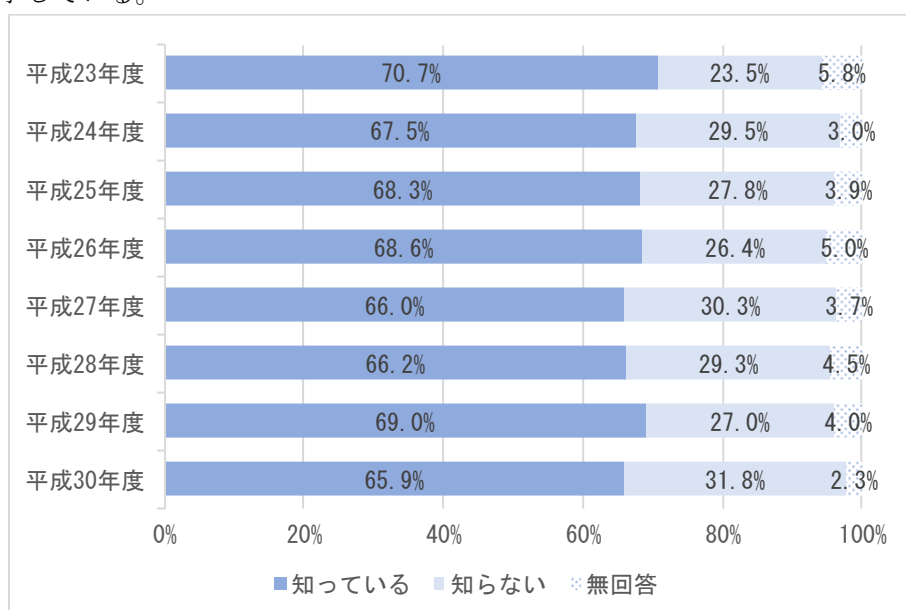
新入生の奨学金等制度受給経験、奨学金等制度の認知、学生寮の認知について過去7年間の結果と今年度の結果とを比較したものを図表5-1～5-3に示す。

図表5-1は新入生のこれまでの奨学金等制度の受給経験について過去7年間の結果と比較したものである。今年度は、奨学金受給経験が「ある」と回答した割合が11.7%であり、これは平成25年度の13.4%に次いで2番目に高い割合である。



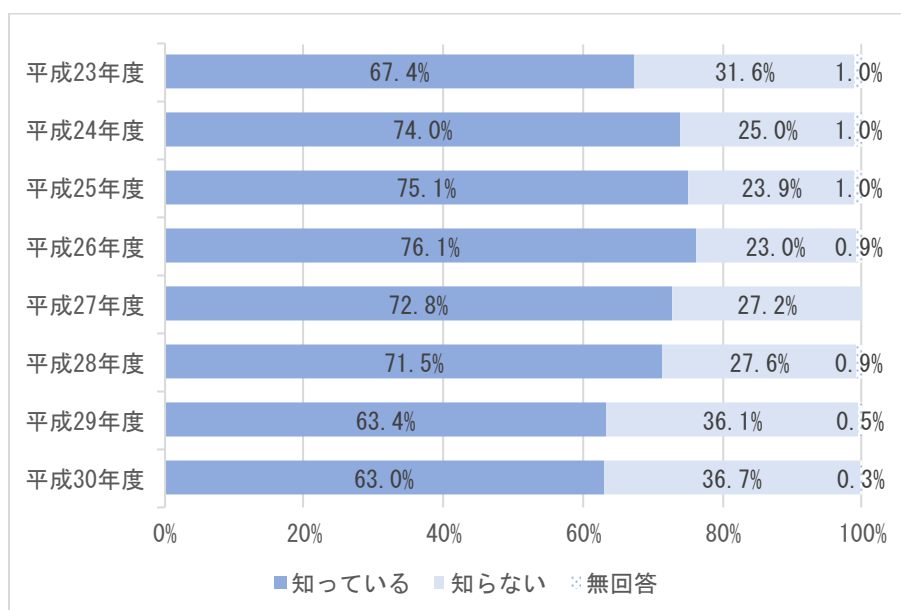
図表 5-1 新入生の奨学金等制度受給経験 過年度比較

図表5-2は新入生の奨学金等制度の認知について過去7年間の結果と比較したものである。奨学金等制度について認知している割合は、「知っている」が65.9%と、過去7年の結果と比べて最も低い割合を示している。



図表 5-2 新入生の奨学金等制度の認知 過年度比較

図表 5-3 は新入生の学生寮の認知について、過去 7 年間の結果と比較したものである。新入生の学生寮認知率については、平成 26 年度以降認知率が低下しており、今年度調査では、「知っている」が 63.0%と最も低い割合を示している。

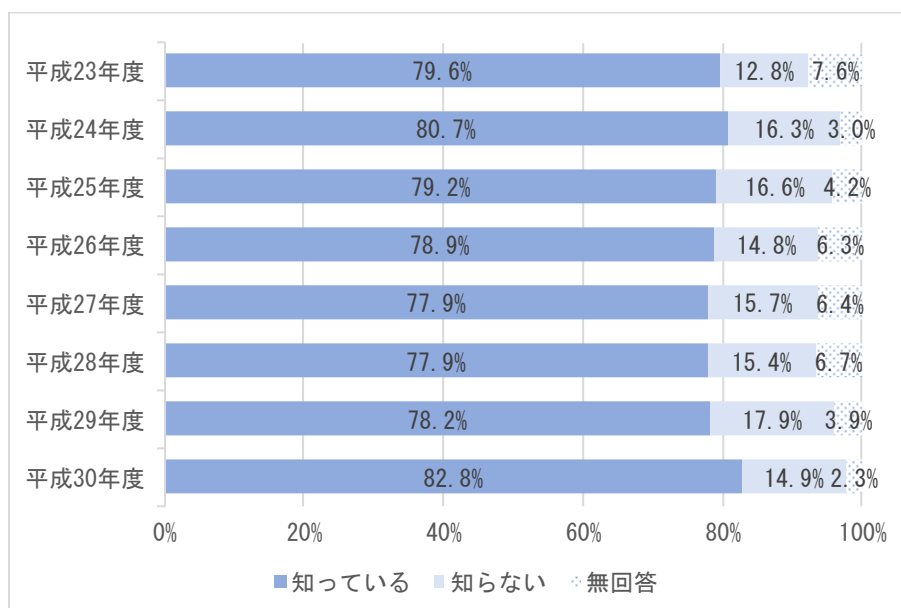


図表 5-3 新入生の学生寮の認知 過年度比較

② 保護者

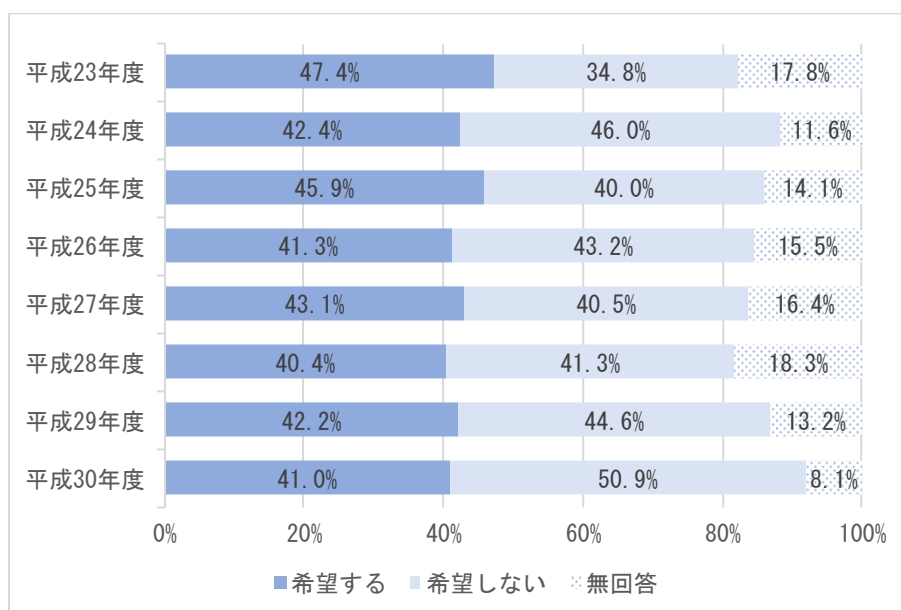
保護者の奨学金等制度の認知・希望、学生寮の認知・希望について過去 7 年間の結果と比較したものを図表 6-1~6-4 に示す

図表 6-1 は保護者の奨学金等制度の認知について過去 7 年間の結果と比較したものである。「知っている」が 82.8%、「知らない」が 14.9%であった。「知っている」と回答した割合は過去の調査の中で最も多い割合であった。



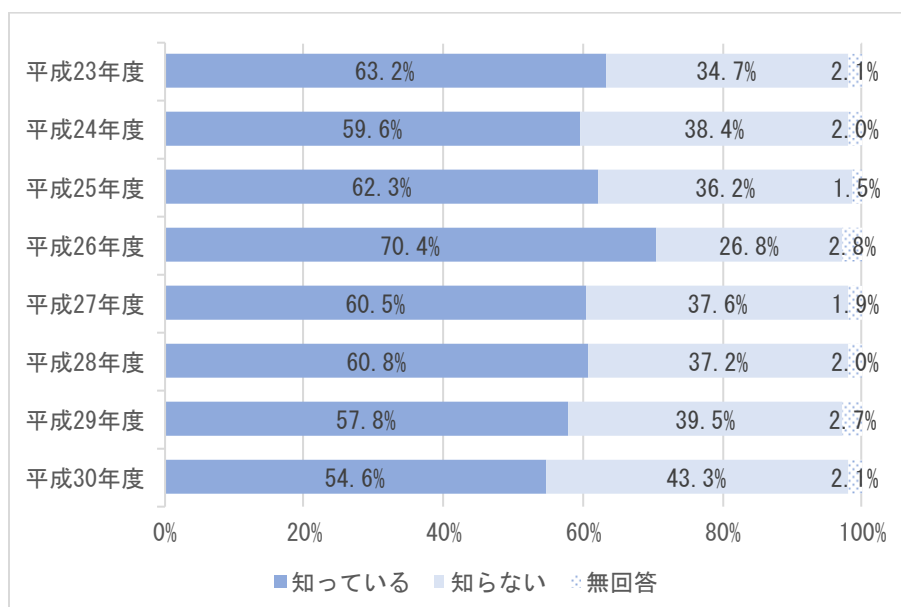
図表 6-1 保護者の奨学金等制度の認知 過年度比較

図表 6-2 は保護者の奨学金等制度の利用希望について過去 7 年間の結果と比較したものである。今年度調査では「希望しない」が 50.9%であり、今年度調査で初めて「奨学金を希望しない」と回答した割合が 50%を超える結果となった。



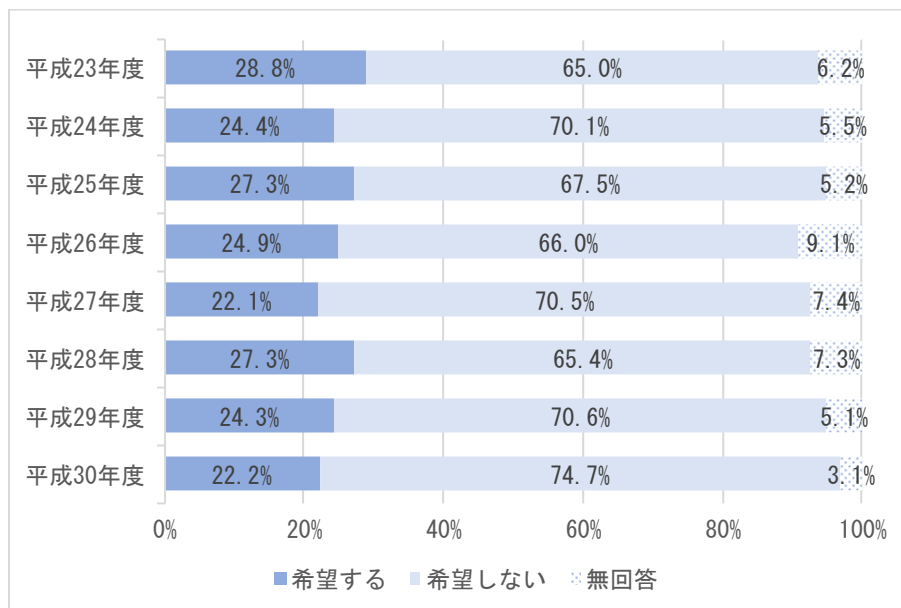
図表 6-2 保護者の奨学金等制度利用希望 過年度比較

図表 6-3 は保護者の学生寮の認知について過去 7 年間の結果と比較したものである。「知っている」が 54.6%と、昨年度調査の 57.8%と比較して 3.2 ポイント減少しており、過去の調査の中で最も低い認知率を示している。



図表 6-3 保護者の学生寮の認知 過年度比較

図表 6-4 は保護者の学生寮希望について過去 7 年間の結果と比較したものである。今年度は、学生寮への入寮を「希望する」と回答した割合は 22.2%、「希望しない」と回答した割合は 74.7%である。今年度調査では、「希望しない」と回答した割合が過去調査の中で最も高い割合であった。



図表 6-4 保護者の学生寮利用希望 過年度比較